

「緋のあづま」のビーエー液剤処理によるフェザー苗の養成

福島県果樹試験場 栽培部

平成17年度福島県果樹試験場試験研究成績書

1 部門名 果樹－リンゴ－生育調節

分類コード 04-01-16000000

2 担当者 岡田初彦・大橋義孝・木幡栄子・佐藤 守

3 要 旨

(1) JM7台「緋のあづま」はフェザーの発生が少ないことから、ビーエー液剤を散布したときのフェザー発生特性を調査した。今回の試験は2年生苗木を用い、ビーエー液剤散布区は接木部から40mm前後の位置で1年枝部を切り返し、対照区は接木部から60～70mmの位置で1年枝部を切り返した。ビーエー液剤散布の方法は、先端新梢が約10mm伸長するたびに計5回樹全体に散布を行った。ビーエー液剤の散布濃度は3回目までは50倍で行ったが、フェザーの生育が比較的旺盛であったため4回目以降は100倍とした。

(2) フェザー発生本数は、無散布では0本であったが、散布区では平均で13.7本の発生が認められた。また、マルバ台でも平均12.3本の発生が見られた。

(3) 総フェザー長はJM7台BA散布区に比較しマルバ台が長かった。これは50mm以上のフェザー発生本数が多かったことによる。

(4) フェザー発生部位が新梢全体に占める割合は、JM7台BA散布区が36%前後、マルバ台が39%前後であり、JM7台BA散布区は新梢基部2～3芽目、マルバ台は新梢基部6～10芽目から中位部にかけて発生した。また、JM7台BA散布区の最上位フェザーの発生位置は、散布4回目の新梢長とほぼ一致し、5回目の散布は効果が低かったと推測される。

(5) 今回は樹全体へビーエー液剤の散布を行った為、樹勢により発生数や総副梢長にバラツキがあったが、2年枝部から発生した側枝上からも副梢の発生が見られた。

4 その他の資料など

なし